

- 年頭所感・日野のサイノカミ …… 1
市内の学校の授業風景より…・日野市の特別支援教育 … 2
日野市一斉歯みがきウィークと食育・図書館基本計画を策定しました … 3
ひのっ子ががんばっています・日野市の文化財紹介 … 4



浅川から望む富士

子どもの頃、お正月に家族で遊んだ百人一首。私が唯一とれた、またとらせてもらえた、僧正遍照の一首です。祖母はど



あまつかぜ くものかよひじふきとぢよ
をとめのすがた しばしとどめむ

うしてあんなにたくさんとれるのか、「大きくなったら、もっといっぱいとれるようになるう！」と幼心に思いました。さて、昨年十二月に日本人が四人も一度にノーベル賞を受賞しました。暗い時勢のなかで、久しぶりに世の中を明るくした話題です。私が感激したのは、それぞれ

の方がそれぞれに、大変味わいのある言葉を述べられたことです。特に、物理学の南部陽一郎さん（アメリカ国籍）は、モノはなぜ重さを持つのか、という根源的な問いに答える理論を、なんと今から約五〇年前の一九六〇年に数式化していたのです。当時の専門家の反応は極めて鈍く、それでもくじけることなく研究を続けられたのは「とてつもなく先のことを考えるのが好きだった・・・理論を時代に先がけて開拓する喜びは苦勞を上回った」という理由からでした。

一方、化学賞の下村脩さん（この方もアメリカ国籍あり）は、いまやガン研究になくてはならないGFP（グリーン・蛍光・たんぱく質）発見の第一歩として、オワンクラゲに着眼し、ある夏には来る日もくる日も海に出て、家族でクラゲを採集したとか。これまでに収集したそのクラゲの数は八十五万匹、と聞くと、苦勞を厭わない科学者の好奇心や、不屈の忍耐を垣間見て圧倒されます。

「おもしろいことがあったら、どんどんやりなさい。難しいことがあるとすぐやめる人が多いが、ぎます・・・何かやり始めたらやりとげて欲しい」という下村さんのメッセージは、理科系文科系に関わらず、将来を担う子どもたちに是非聞かせたい、示唆に富んだ言葉でした。

今回のノーベル賞は何十年も前に発表した理論が、人類にとって大変役に立つものだ、ということがようやく証明された今受

年頭所感

「空はなぜ青いの？」

日野市教育委員会
委員長 田口 直

賞に結びついたという特徴があります。

いつ答えが出るかわからないこと、また正解がないかもしれない課題が目前に山積みされているのが現実ですが、子どもたちが希望の持てる将来を準備することは私達現役世代の責任ではないでしょうか。政治や産業界のやるべきことも多いけれど、一人一人の積み重ねが世の中を支えていることを忘れてはなりません。求められているのは結果でなく、未知なるものに対する好奇心と、創造する力、それらを持続させる忍耐力と言えます。この点から子どもたちの日常生活を見る時、学校と家庭の連携は今よりももっと密接に、と願わずにいられません。子どもたちには、まず学校では基礎基本を習得し、モノの本質をとらえる力を身につけて欲しいと思います。友人を通して学ぶことも多いのですが、学校だけでなく生活習慣の大方は家庭で育まれると思います。学校が完全週五日制の現在、親子で過ごす時間も増えています。親子で共に遊びましょう。共に切磋琢磨いたしましょう。「子どもは親の言うようにはならない。親のするようになる」のですから。そして感性豊かな子どものつづやきに耳を傾けましょう。けっこう本質を突いていると思います。

お正月のきりりと引き締まった空を見上げて「空はなぜ青いの？」と子どもがつぶやいたら…素晴らしい疑問！ですね。「理科離れ」や「勉強嫌い」が問題視されていますが、他人任せにしないで、ごいっしょに考えていこうではありませんか。

日野のサイノカミ（どんど焼）

〈サイノカミとは？〉

サイノカミは、サイトヤキ、サギチョウ、トンドなどとも呼ばれる小正月の火祭り行事です。東日本では、道祖神祭りと呼ばれる付いて行われることが多いのですが、祭りのやり方はそれぞれの地域で異なります。村境で行われることが多く、悪霊や疫病が村の中に入ることを塞ぎ、人々の健康を願いました。

日野市域では、もとはサイノカミと呼ばれていましたが、最近ほとんど焼きと呼ばれることが多く、1月中の土曜・日曜・祝日に開催されます。

〈子ども中心の行事だった〉

サイノカミは、子どもたちが中心になって行う行事でした。七草を過ぎると、子ども組と呼ばれる、8歳から15歳位の子どもの集団が、各家から門松や正月飾りを集めて回りました。このときに、一緒に餅・米・みかん・小銭などを貰います。「セーノ オコメニ オシヨウ ユニ オカネニ オマキニ オモチニ ドッサリクレヤ ○○（その年干支） コーヤイヤイ」などという唱え言葉を皆で囃し、何も貰えない家には、「オンベ



郷土資料館主催のどんど焼（平成20年1月）

ラボウ」と言って、年神様の幣束を置いて行きました。幣束を置いて行かれると、災いがあるとされました。

年長の子どもの指導のもと、藁やカヤで作った小屋に正月飾りや門松をつけ、甘酒やけんちん汁などを作り、小屋の中で遊びました。小正月前夜や当日の朝には、大人も一緒に小屋を燃やし、繭玉の団子を焼いて食べました。団子を食べると風邪をひかないといわれ、燃やした書き初めが高く舞い上がると、上達するなどと言われました。

〈中断されたサイノカミ〉

戦前は市内各所で行われたサイノカミは、戦争中に半分ほどの地域で廃止されました。戦後になっても、子どもの減少や消防法による制約、また、子どもが賽銭を集めてまわることが教育上好ましくないとされるなど、様々な理由で廃止され、昭和40年頃には、日野市内で行事を行なう地域はなくなりました。

〈復活され現在に至る〉

昭和40年代後半から50年代になると、サイノカミ復活の声が高まり、大人中心の行事として再開されるようになりました。平成20年には市内15か所で開催されています。

開催の条件は年ごとに厳しくなっていますが、たくさんの人たちが集まって楽しめる日野の冬の風物詩として、これからも継続してほしい行事です。

（郷土資料館）

※開催場所・日時が毎年変更される地域もあるので、確認の上お出かけください。

市内の学校の授業風景より…

日野市内の学校にコンピュータが導入されて小学校は3年目、中学校は2年目を迎え、授業での活用が定着してきました！

日野市で進めているICT活用教育の目標の一つは、ICTを各教科の授業の中で効果的に活用すること、分ける授業、魅力ある授業を実現することにあります。市内の学校では、教材を拡大して映し、分かりやすく説明するといった活用が日常的に行われています。



数学の授業風景
(大坂上中学校にて)

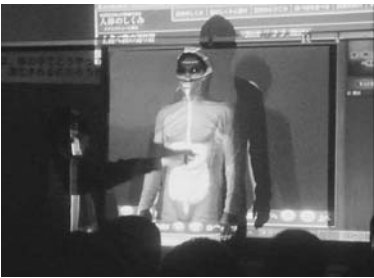
さらに、それぞれ教科のねらいに迫るための教科ならではの活用も行われるようになってきました。今年度は、科学技術振興機構(JST)の科学技術理解増進事業である「実験・観察融合型デジタル教材活用共同研究」に、全国10地域のひとつとして採択されたことを受け、日野市の理科教育の充実を目指して、市内全校で、最先端の理科ねつとわくデジタル教材を活用し

た魅力ある理科の授業の実現に取り組んでいるところです。また、各教科での活用に加えて、総合的な学習の時間において、



上流、下流の様子を浅川で体験したことを比べる
(日野第七小学校にて)

ポディスクリーンに投影して人体のしくみを学ぶ
(潤徳小学校にて)



最新情報を収集して、翌日の天気を予測する
(旭が丘小学校にて)

地球の内部の様子をシミュレーションで学ぶ
(平山中学校にて)



でも、多くの学校で児童・生徒が学習成果をプレゼンテーションし、学び合う活動を行っています。先日は、日野第四小学校と潤徳小学校の5年生が、社会科の「米作り」の体験学習を振り返って協同学習を行いました。



他校との協同学習
(日野第四小学校にて)

違う学校の子とも達が、同じテーマを進めてきたことを、スタディノートでまとめ、インターネット掲示板を通して感想や意見を交換し合う活動です。お互いの気づかなかったことを学び合い、視野が広がったという成果が見られました。今後も、こうした子ども達の学び合いを深めていける学習活動を進めていきたいと考えています。

特別支援学級では、ICTが効果的に活用され、その効果が上がっています。



体験を振り返って発表
(日野第三小学校ひばり学級にて)

ICT活用教育推進室

日野市の特別支援教育

リソースルームについて

平成19年度から特別支援教育が本格的に始まりました。特別支援教育では、通常の学級に在籍している児童、生徒のニーズに応じた支援を行うためさまざまな取組みを行っています。その一つにリソースルームがあります。現在、市内9つの小学校に開設しています。

日野市では、特別支援教育の実施にあたり、児童・生徒のニーズに応じた支援を行うためさまざまな取組みを行っています。その一つにリソースルームがあります。現在、市内9つの小学校に開設しています。

リソースルームがどのようなのか、どのように運営しているかについて、モデル校として最初に取り組んできた潤徳小学校の「リソースルーム」について紹介します。



リソースルームで学ぶ

自分の学校で教室を移動して個別に学ぶリソースルームをつくりました。19年度には潤徳小がモデル校として立ち上げ、本年度には他に8校と広がり、どの学校も予想以上の成果を上げています。

リソースルームで学ぶ子どもは、例えば作文は豊かなのに漢字が覚えられない、聞いて覚えることが苦手など他のことはできるのにある特定のことが特別苦手であったり、丁寧に繰り返しやるが必要だったり、その子に合ったやり方で効果上がる子どもがかわっています。週1時間から2時間

リソースルームについて

校長 宮崎 芳子

「丁寧に指導していただいて自信が出てきたようです。」

「今までしなかった勉強の話をするようにになりました。」

リソースルームに通う子どもにも合った教材がある部屋という意味で、いわば「学習の保健室」です。パニックを起こす子どものクールダウンの部屋ではありません。あくまでも学習室です。

日野市は、都内でも先駆的に

で子どもがこんなに変わるのかと2年間の実践を経て驚きをもって実感しています。

リソースルームで自信をつけて、自分の教室での学習にも意欲を見せ、落ち着いて学ぶ姿がみられます。一人ひとりの落ち着きは、教室全体の意欲や学力にも影響することになります。

リソースルームの実践が効果を挙げるために必要なことがあります。それは、保護者や級友、そして担任や教師の理解です。「いつてらっしゃい。」と温かく認める級友や「今日はこの勉強をしたのね。がんばったね。」といった担任の声掛けはリソースルームで学ぶ子どもの大きな励みになります。

リソースルームは、まさに、一人ひとりの個性を認め、一人ひとりに応じる特別支援教育の原点です。どの学校にも必要な教室です。今後さらに広がり、将来は中学校にもつながるとよいと思っています。

日野市では、今後も、特別支援教育の充実に向けて取り組んでいきます。

特別支援教育推進チーム

を受け、国際人としての資質を磨いています。

(校長 京極 澄子)



礼法を学ぶ児童

礼法

新年には、子供達も様々な方に「ご挨拶する機会がふえます。そこで日野第三小学校の礼法を紹介します。(学校課)

日野第三小学校では、日本の伝統文化理解教育の一環として、5・6年生で、礼法の授業を行っています。講師の先生をお招きし、あいさつ・食事・言葉遣い、服装、立ち居振る舞いなどのマナーを学びます。最後に、検定

日野市公立小・中学校書初め展

▽日時 1月17日(土)・18日

(日)午前9時30分～午後4時

※18日は午後3時30分まで

▽会場 市民会館・展示室

▽問い合わせ先 日野四中

(枝村 電話 583-3905)

日野市公立中学校美術展

市内の中学校生徒が、美術の授業の中で制作した絵画、彫刻粘土等の作品を展示します。力作をご覧ください。

▽日時 1月24日(土)・25日(日)午前9時～午後5時

※25日は午後4時まで

▽会場 市民会館・展示室

▽問い合わせ先 三沢中

(内田 電話 592-5017)

日野市公立小学校図画工作展

市内の小学校児童が図画工作の時間に制作した作品を展示します。ぜひ、ご覧ください。

▽日時 1月29日(木)午後1時～午後4時30分、1月30日(金)午前9時15分～午後4時30分、1月31日(土)午前9時15分～午後3時30分

▽会場 市民会館・展示室

▽問い合わせ先 日野六小

(櫻井 電話 581-4686)

日野市立教育センター

調査研究事業発表会

日野市の教育課題を取り上げ、学校教育や教育行政に生かされるシンクタンクとしての役割を

目指す四つの調査研究の成果の発表を左記のように行いますのでお知らせします。

▽日時 2月19日(木)

14時30分～16時30分

▽会場 日野市教育センター

3階講堂

▽問い合わせ先

電話 592-0505

日野市「斉歯みがきウィーク」と食育

日野市歯科医学会 佐々木 智史



近年、食の重要性が見直され「食育」活動として色々な取り組みがされています。

食えるという生理の入りは「口腔」で、噛むという機能は生まれたときから獲得しているのではなく後天的に発達する機能です。

現代人の1回の食事は、弥生時代と比較して咀嚼回数(そくくはんすう)が6分の1以下、食事時間も5分の1になっていきます。戦前(70〜100年前)と比べても2分に1に激減しています。これは、昔に比べ加工された歯ごたえが少ない食品が増え、噛まなくても食べられてしまったためです。

この、軟食文化の蔓延は、よく噛まないで食事する習慣を生み出し、きちんと噛んで食べるということにも影響を与えてしまい、年齢に応じた口・顎・顔面等の正常な発達が行なわれません。

また、軟食は食事時における刺激時唾液量を低下させ、消化機能だけでなく、歯の自浄作用や保護機能、口腔の抗菌作用、免疫機能等の唾液機能が不十分になり、歯に付着する歯垢を増加させむし歯や歯肉炎を起こし易くなります。

むし歯で穴が開いたり痛みがでたり、歯肉炎で歯茎が腫れて痛い等の異常が起きると、やはり食べ物を良く噛めずに飲み込むようになり、口の周りの顎の骨や筋肉(咀嚼筋や口周囲筋)の発達が鈍くなり不正咬合の誘引にもなってしまうのです。このことから、むし歯や歯肉

炎、不正咬合のない健康な口であることは、単に口腔の疾患というだけではなく、健康な口腔を育むという「食育」の面からとても重要なのです。

日本咀嚼学会では、良く噛んで食べることの効用として「ひみこのはがいーぜ」という標語を掲げています。

「ひ」肥満予防：良く咬めば満腹中枢が働いて食べ過ぎがなくなります。

「み」味覚の発達：良く咬んで沢山の種類の食物を食べれば味覚が発達します。

「こ」言葉の発音がはっきり：口の周りの筋肉が発達して発音が良くなります。

「の」脳の発達：咬む事が脳の発達にも関係します。

「は」虫歯、歯周病の予防：咬むことにより分泌される唾液が虫歯を予防し、咬むことで歯ぐきや顎の骨が鍛えられます。

「が」癌予防：唾液が発癌物質を中和します。

「い」胃腸快調：当然消化も良くなります。

「ぜ」全力投球：良く咬めるということは力を発揮できるということなのです。

良く噛めるということは歯を丈夫にし、歯並びをよくするだけでなく、顔の骨や筋肉を発達させ、身体全体の発育や脳の発達にも影響するので、学童期では良く噛んで食べることが大切なのです。

「むし歯や歯肉炎等の病気のない健康な口の育成は、健全な口腔機能が得られる」という考えから、日野市歯科医学会では児童・生徒の集団的啓発活動の一環として、11月8日(いい歯の日)の週を「日野市一斉歯みがきウィーク」として、歯科校医を通じて実施しております。

4年目を迎えたこの活動は、歯科講話や歯みがきの指導など各学校で独自のユニークな取り組みがされております。そんな中で、19年度の日野市の永久歯のむし歯状況は、小・中学校とも東京都平均を下回り、その成果も少しずつ表れてきており、今後もこの事業活動を続けていくことにより、日野市の児童・生徒の健全な口腔の健康が向上できればと考えております。

この計画は、開設以来43年が経過した図書館事業について、市民のみなさまの意見を取り入れて、これからの図書館のあり方を具体的に示すことを目的に策定しました。

『くらしの中に図書館をー市民に役立ち、共に歩む図書館ー』 図書館基本計画を策定しました

この計画は、開設以来43年が経過した図書館事業について、市民のみなさまの意見を取り入れて、これからの図書館のあり方を具体的に示すことを目的に策定しました。

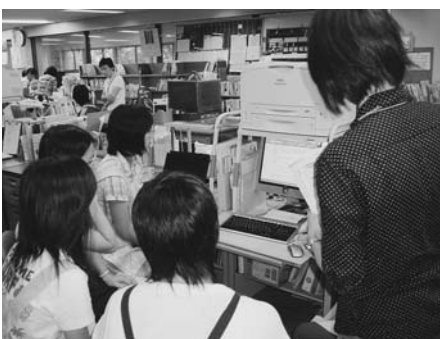
計画は、市民委員会を中心とした策定委員会による討議と、市民・来館者・中学生・高校生を対象としたアンケートによりまとめました。アンケートでは、ひのっ子たちの図書館に対する思いを直に聞くことができました。例えば、「楽しい本の紹介をしてほしい」「読み聞かせをしてほしい」「人気の本コーナーがあつたらな」「昼コーナーがいいな」「図書館の人がおすすめする本が並べてあるといいな」「雑誌の種類を増やして」など、今後の運営に役立てたい意見も多くありました。

重点的な取り組みとされた中から、児童・青少年に関する項目をご紹介します。「子ども読書活動推進計画」に基づく項目も多く、更なる発展を目指します。



③ 青少年へのサービス
青少年を対象としたコーナーを設け、資料充実させます。またコーナーの運営に関わる機会を設けます。

この一環として、今夏初めて行った「ヤングスタッフ」について紹介します。市内在住・在学の高校生を対象に、「図書館で働くということ」「仕事をするといいこと」を体験してもらう目的で、毎年中学生向けに行っている「夏休みジュニアスタッフ」から一歩進んだ専門的な内容で行いました。「分類当てクイズ(本の分類番号を内容から連想する)」「おすすめ本ポップ作り」「調べ方のコツ」など、体と頭を目一杯働かせてもらいました。貸出返却のイメージが強い図書館ですが、今回は、図書館業務の根幹でもあるレファレンス(調べもののお手伝い)を中心としたものでした。「ちよつと難しいかな?」とこちらも躊躇しましたが、「中学生職場体験も経験したけど、その時とは違うことができてよかった」「久しぶりに図書館にきたけど、図書館のことが結構わかった、嬉しかった」「絶対にほかの人にはできないことができて良い経験になった」という嬉しい感想をもらいました。私たちも、高校生対象の行事は初めてでしたが、お互い得るものが大きく、今後も、より充実した体験ができるよう計っていきたいと思います。



① 学校・学校図書館との連携
(学校図書館支援センター機能)
今までも、学校訪問、出張点字授業、施設見学や中学生職場体験の受入など、連携を進めてきましたが、さらに、学校への搬送便を週1回以上運行、学校図書館と図書館とを結ぶ「蔵書データ」ネットワークの構築、学校・学校図書館関係者への図書館利用案内などを行います。

② 児童へのサービス
資料の充実、子どもと読書の出会い、子どもと読書にかかわる活動の支援をさらに行います。



③ 青少年へのサービス
青少年を対象としたコーナーを設け、資料充実させます。またコーナーの運営に関わる機会を設けます。

この一環として、今夏初めて行った「ヤングスタッフ」について紹介します。市内在住・在学の高校生を対象に、「図書館で働くということ」「仕事をするといいこと」を体験してもらう目的で、毎年中学生向けに行っている「夏休みジュニアスタッフ」から一歩進んだ専門的な内容で行いました。「分類当てクイズ(本の分類番号を内容から連想する)」「おすすめ本ポップ作り」「調べ方のコツ」など、体と頭を目一杯働かせてもらいました。貸出返却のイメージが強い図書館ですが、今回は、図書館業務の根幹でもあるレファレンス(調べもののお手伝い)を中心としたものでした。「ちよつと難しいかな?」とこちらも躊躇しましたが、「中学生職場体験も経験したけど、その時とは違うことができてよかった」「久しぶりに図書館にきたけど、図書館のことが結構わかった、嬉しかった」「絶対にほかの人にはできないことができて良い経験になった」という嬉しい感想をもらいました。私たちも、高校生対象の行事は初めてでしたが、お互い得るものが大きく、今後も、より充実した体験ができるよう計っていきたいと思います。



歯磨き指導風景

ヤングスタッフの様子

(多摩平図書館)

平成20年度全国学力・学習状況調査 〈児童・生徒の生活状況〉

前号で「学力」調査について掲載しましたが、それに続いて今回は、「生活状況」の特徴についてお知らせします。

【小学校】

日野市の小学6年生では、「朝食を毎日食べている」「家で計画を立てて勉強している」「海、山、湖、川などで遊んだことがある」といった項目に対し、「している」と答えた児童の割合は、東京都や全国よりも

高いものでした。

他方で、「人の役に立つ人間になりたいと思う」などの項目に対し、「当てはまる」と答えた児童の割合は、東京都や全国より低くなっています。

【中学校】

日野市の中学3年生では、「学校の規則を守っている」「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」といった項目に対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、東京都や全国より

高いものでした。

他方で、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役にたつ人間になりたいと思う」といった項目に対し、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、東京都や全国より低くなっています。

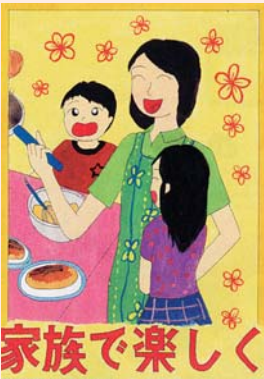
今後、家庭や地域の協力を得て、この調査の結果を施策に生かしてまいります。(学校課)

「東京都教育の日」記念行事で、表彰される

「東京都教育の日」とは、次代を担う子どもたちの教育について、都民全体で推進し、都における教育の充実と発展を図るため、毎年の11月の第一土曜日を「東京都教育の日」としています。

三沢中学校

「東京都教育の日」ポスター部門中学の部で、2年生の増戸優美さんが、東京都教育委員会から優秀賞をいただきました。ポスターのテーマは、「大切です！家庭のコミュニケーション」です。



《増戸優美さんの感想》
前から絵を描くのが好きで、このポスターもとても楽しんで描けました。お母さんと料理をする女の子とお母さんの作業に感心して驚いている男の子、そして家族で「いただきます。」というイメージで描きました。

日野第四中学校

「ガーデニングサークル」は、東京都教育委員会から学校活動支援団体（環境活動支援部門）に対する感謝状をいただきました。これは、5年以上の長期にわたって継続して学校を支援している団体に送られる賞です。



憩いの花壇

「秋山譲児校長の話」

平成14年4月より、校舎前、体育館前に花壇を作り、学校を花いっぱいにしていきます。

クリスマス、卒業式などの行事ごとに美しい装飾をほどこし、生徒の豊かな心の育成につとめています。

「代表者 佐野礼子さんの話」

すでに8年目に入るサークルの継続の力は大きいです。現在の18名のサークルです。卒業生と在校生の保護者がいますが、今まで長く続いたのはそれぞれの人が、できる範囲で楽しんで活動したからだと思っています。主な活動は土日ですが、水やり等は、美化委員の生徒も毎朝、当番を決めて手伝ってくれています。

ひのっ子ががんばっています

三沢中学校

野球部の活躍

平成20年度 第7ブロック 秋季新人野球大会で優勝しました。
平成20年度 東京都新人野球大会 ベスト8に進出しました。



三沢中学校第7ブロック優勝メンバー

女子バスケット部の活躍

平成20年度 第7ブロック 73地区新人大会で優勝しました。その勢いで東京都大会ではベスト8に残りました。



三沢中学校女子バスケット部員

七生中学校

【柔道、また更に前進】

2年生の國本早永さん（前号⑪号に掲載）が、東京都中学校新人女子柔道選手権大会で見事に優勝しました。

日野第三小学校

「空手道で活躍」



古畑田莉万さん

5年生の古畑田莉万さんが関東地区空手道選手権大会の、「女子組み手の部」で準優勝しました。その後、全国大会に関東地区代表として参加した結果、「女子組み手の部で三位」になりました。

潤徳小学校

「海とさかなの作文で輝く」



橋本啓吾くん

4年生の橋本啓吾くんが、朝日新聞社主催の「海とさかな」自由研究・作品コンクール創作部門で、水産総合研究センター理事長賞を受賞しました。

日野第四小学校

「ピアノにかける夢」



松本淳希くん

6年生の松本淳希くんが、こまば会「ピアノコンクール」で三位に入賞しました。演奏曲はウェバー作曲「ロンド・ブリランテop.62」です。こまば会「ピアノコンクール」参加者は、広く音楽界で活躍されています。（学校課）

初日の出マラソン

青少年育成会の特色ある行事の中から「初日の出マラソン」を紹介いたします。（学校課）

二中地区育成会と七生中地区育成会では、「初日の出マラソン」を行っています。育成会発足前からの行事を継承し、それぞれ、41回と32回を数えます。（この他に旭が丘小でも独自に同様の取り組みをしています。）元日の空が少しずつ明るみ始める頃、子供、保護者、地域の方が次々とスタートします。折り返し地点で待つこと暫し、金色の日輪が姿を見せ、辺りが急に暖かくなります。子供も大人も太陽の大きな姿と、新しい年の始まりを心に刻むひと時です。子供を真ん中に置いて、保護者と地域と学校が一体になり、清らかな思いを共有できる素晴らしい行事です。

ゴールの後でふるまわれる甘く温かなお汁粉が、嬉しいご褒美です。（二小校長中村 康成）



初日の出を仰いで

日野市の文化財紹介

百草の丘陵に真慈悲寺をしのぶ

京王百草園とその南に隣接する百草八幡神社あたりから、その東方に広がる丘陵地帯には、鎌倉時代を前後する時期に真慈悲寺という寺院が存在したらしいことが、20年ほど前から強く推定されてきました。

百草八幡神社の奉安殿に安置されている銅造の阿弥陀如来坐像（国の重要文化財に指定されています。毎年9月の第2日曜日に公開）の背中に刻まれた銘文の中に「武州多西吉富真慈悲寺」（「武州」とは「武蔵国」、今の東京都と埼玉県及び神奈川県の一部、「多西」とは「多摩郡」のことで、多摩川の南で鎌倉街道の西に広がっていた地域「吉富」とは、「吉富郷」を指し、今の百草を含む多摩市関戸を中心とする地域、とあることから、真慈悲寺が百草周辺にあったのではないかと古くから考えられてきました。しかし、仏像はもとあった場所から移されることもよくあることですので、いま百草八幡神社に安置されているからといって、かつてそこに真慈悲寺があったという決定打にはなりません。

状況が大きく変わったのは、平成になって行なわれた、京王百草園内での発掘調査によつてです。水洗トイレ建設地点の調査で、5000点近い鎌倉時代の瓦の破片が出土したのです。この時代に瓦が葺かれた建物といえ、ほぼ寺社に限定されます。この大量の瓦から真慈悲寺

に関わる建物が京王百草園の中に存在した可能性が一気に高まったのです。

さらに、昨年には郷土資料館が東京電力総合研修センター内で発掘調査を実施し、中世の集石墓と想定される遺構を確認。今年度には庵の柱の跡と想定される柱穴を150基以上調査しました。集石墓はおそらく僧侶のお墓と考えられ、庵は僧侶の住まいと考えられます。

京王百草園入り口前は、三叉路になっています。その三叉路を東に下っていくと、両側に丘陵が広がっていますが向かって右の東電の構内が集石墓と庵の跡と想定される遺構が見つかった場所です。左手の丘陵地帯にも何か真慈悲寺に関連する施設があったかも知れません。道路は真堂谷戸と呼ばれる谷に沿って下っていきます。いかにもお寺に関連しそうな名前ですね。

東電構内の調査地点は遺構を保護して埋め戻され、遺構を目にすることはできませんが、緑に覆われた百草の丘陵地帯に、こうした真慈悲寺関連の遺構がまだ眠っているとイメージしながら散策するのも、楽しいのではないのでしょうか？

真慈悲寺について新しい事実が明らかになれば、またご紹介します。（郷土資料館）



東電構内で発見された柱穴群